

○議長（吉田敏郎）

続いて、6番、星野洋一議員、どうぞ。

○6番（星野洋一）

皆様、こんにちは。6番議員、星野洋一です。

本日は、通告に従いまして、高齢者へのごみ出し支援策を問うという1項目について質問をいたします。

日本の高齢者人口は、現在26.7％に達し、2035年には3人に1人が高齢者になると推測されております。ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯が増加すること、また、病気や身体的衰えで、ごみ出しに課題を抱えることが増えてきております。

環境省では、ごみを集積場まで運ぶことが困難な高齢者のために、自治体などが高齢者の自宅に出向き、ごみを回収するごみ出し支援制度の拡充に乗り出す方針を決めております。同省は、支援状況などを調査した上で自治体向けのガイドラインを来年3月までに作成し、制度づくりを促すとしております。本町でも、平成28年に高齢化率が25％を超えております。自治体による高齢者へのごみ出し支援制度が必要になってくるのではないのでしょうか。

ごみ出し支援は、高齢者の負担を減らしてごみを収集できることに加え、高齢者の見守りなど効果が期待できております。よって、次の事項について問います。①現状の高齢者のごみ出しの状況、支援の現状は、②見守りを含めたごみ出し支援の連携をどのように考え構築しているのか。

以上、よろしくお願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

町長。

○町長（府川裕一）

それでは、星野議員の御質問にお答えをいたします。

1点目の現状の高齢者のごみ出しの状況、支援の現状について、お答えをいたします。

平成27年に国立環境研究所が全国の自治体に対して行った調査では、高齢者のごみ出し支援制度があると回答した自治体は23％でした。その一方で、ごみ出しが困難な住民が今後、増えると回答した自治体は87％に上がるという結果が出ており、全国的に見ると支援を必要とする状況が増えつつあります。

開成町のごみ置き場の状況は、燃えるごみ置き場が324カ所、燃えないごみ置き場が71カ所、資源ごみ置き場が53カ所、設置されており、町の面積に対してごみ置き場は比較的多く、住宅が密集し平坦な地形であるため、今のところ、ごみ出しの問題は大きく表面化はしておりません。

現在の高齢者に対するごみ出しの支援の現状は、社会福祉協議会が実施をしているお互いさま活動の「ちょこボラ」や、町が進める生活支援体制整備事業において、中家村地区及び円中地区の地域支援組織により、その活動のメニューの一つとして取り

組まれております。

「ちょこボラ」は、地域の支え合い活動の一つとして、軽微な困り事を解決するためのボランティア派遣事業であります。中家村地区では「おたがいさまネット中家村」が主体となって活動し、円中地区では老人クラブの「円中長生会」の生活支援活動において、それぞれごみ出し支援、話し相手、買い物代行、医療機関の通院送迎など、住民主体に地域の助け合い活動を実施しております。また、この活動の中で、支援者の様子がいつもと違うことにも気づくことができるので、緩やかな見守りとあわせて実施がされております。

平成30年度のごみ出し支援の事業は、「ちょこボラ」の登録者数は4人で派遣回数は79件でした。「おたがいさまネット中家村」の登録者数は二人で派遣回数は17件、「円中長生会」の生活支援活動への登録者数は3人で、派遣回数は毎月10回程度となっております。また、老人クラブの友愛活動において、暮らしの中のちょっとした困り事を支え合う生活支援活動の中にもごみ出しが含まれており、各地域での支援につながることを期待されております。

次に、2点目の見守りを含めたごみ出し支援の連携をどのように考え構築していくかについて、お答えをいたします。

開成町でも高齢化が進んでおり、高齢者の見守りや、ごみ出しの困難な方への支援は、今まで以上に必要になってくると考えられます。見守りについては、現在も老人クラブの中の友愛チームの皆さん方により定期的に実施がされております。現在の「ちょこボラ」や生活支援事業、老人クラブの友愛活動などの取り組みは、協働という側面からもとてもすばらしい取り組みであるため、制度や事業の周知を行いながら利用者の拡大につなげていきたいと考えております。また、自治会などの連携を通じて、高齢者をはじめとするごみ出しに支援が必要な方の御意見を吸い上げていきたいと考えております。

なお、国が来年3月までにまとめる高齢者のごみ出し支援に係るガイドラインについては、その内容を踏まえて、開成町に合った支援の形を検討してまいります。

以上であります。よろしくお願いいたします。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

御答弁ありがとうございました。

それでは、順次、再質問をしていきたいと思っております。

それでは、まず、一番最初にごみ出し支援についてでございますが、高齢者におきましては、筋力の低下や病気を抱えられている高齢者にとっては、大きな重いごみ袋や新聞の束、それをごみ置き場まで運ぶのはとても大変な作業であると思われます。また、認知症やその前段階の軽度な認知症、認知の障がいですね、これによって、ごみ出しの曜日や分別のルールを覚えることも難しくなると思われます。自分でごみを出すことが難しいにもかかわらず必要な支援が受けられないと、日常の大変に負担に

なり、怪我のリスクや、ごみ出しが困難なために不衛生な生活環境、ごみ屋敷等、こういうものになりがちになると思われます。また、不適切なごみ出しによる集積所のごみの散乱を招いたりするとも言われております。こういうことを踏まえて質問していきたいと思っております。

まず、最初に、ごみ出し支援において、ひとり暮らしの高齢者または高齢者のみの世帯が大変、これが一番困っているのではないかと思います。一番、支援の届かないところですね。自分で持っていくにも力が足りない、先ほど、言ったように、そういう難しい立場の方は、一番、この二つというか、ひとり暮らしの方または御夫婦で高齢者になってしまった方、そういうものが一番、これは大変苦勞されているのではないかと思います。本町において、この人数というのはどれぐらいいらっしゃるのか、これは把握していらっしゃるのか、そこについてお尋ねいたします。

○議長（吉田敏郎）

保険健康課長。

○保険健康課長（高橋靖恵）

ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

少しデータが古いのですが、平成27年10月1日現在の国勢調査のデータによりますと、開成町の世帯数は6千169世帯、そのうち高齢者の単身世帯は7.2%の443世帯となっております。また、高齢者のみの世帯、御夫婦のみの世帯というのが11.6%で713世帯となっております。こちらは、平成7年からデータを見させていただきますと、毎年増加している傾向にあります。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

平成27年のデータということで、高齢で単身の方、その方が443世帯ですか、高齢者二人のみのみが713世帯、これは実際、大変な数だと思っています。二つのことを合わせると1千100世帯以上の方がごみ出しを自分たちのみでやっているということになりますから、これは本当に大変ではないかなと思っています。

先ほど、一番最初に答弁いただいた中でも、本町は今のところ、ごみ出しの問題は表面化はしていないというお答えをいただいておりますが、実際には、御高齢の方は、平たんではあります。ごみ出しの例えばちょっとした距離の長さ、それに関しても、もう御高齢になると筋力がない、先ほど、言ったように重たいものを持って歩けない、その人たちにとっては大変な作業になると感じております。そのほかにも、平たんでも、例えば、アパート住まいの方とかは階段等もありますし、なかなか、現時点では見えていないかもしれませんが、いろいろなところでは多分、問題を抱えている方がいっぱいいらっしゃるのではないかなと私は感じているのですが。

そういうのは各方面から、なかなか入ってこないという感じなのではないでしょうか。表面化していないということですから、町には、これ、そういうお話が全く来ていないと

ということで、全くというか、来ていないという感じで理解してよろしいのでしょうか、お答えください。

○議長（吉田敏郎）

保険健康課長。

○保険健康課長（高橋靖恵）

ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

平成30年度につくりました高齢者保健福祉計画、また介護保険事業計画を策定するにあたって、基礎資料として平成28年の11月にアンケート調査を実施しました。回収率は、200人に出させていただいたのですが、回収率につきましては70%で、140人の方から結果が得られています。

そのアンケート調査の結果では、日常生活で手助けが必要と覚ることがありますかという問いには、あると答えた方が9人、約6.4%となっております。必要と覚ることがないと答えた方が121人で、86.4%となっております。また、9人の手助けが必要と覚ることがありますと回答してくださった方の、どのような手助けが必要になるかという複数回答の結果では、1番が掃除と買い物で、それぞれ6名の方がいらっしゃいました。2番が星野議員からの御質問のとおり、ごみ出しの支援ということで、5人の方がいらっしゃいます。3番が外出支援、4人、4番がお料理ということで1人ということになっております。

このアンケートが単純集計のため、はっきりと結果は見えないのですが、家族以外で用事などを頼める方がいますかという問いには、いる方が69人、いないという方が67人で、おおよそ、こちらは半分の方が頼める方がいないという状況になっております。

以上となります。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

平成28年11月のアンケートで200人、選んでアンケートを行ったということですが、これによりますと、あるが9人、6.4%、かなり少なくなっているみたいですけれども、実際に200人が、どのような形で、どのような人を選んだのかによって、多分、アンケートの結果は結構変わってきてしまうのではないかと思います。それによつては、もしかしたら、もうちょっと違う形になったのかもしれないけれども、その辺は平均的に選んだという形で見ると良いのかもしれないけれども。

先ほど、言った、一番最後に言われた69人、67人、ある、なしの方で、半分の方はなかなか頼める方もいらっしゃらないという答えをしている。実際には、掃除と買い物とか、いろいろ項目は違っているのかもしれませんが、やはり半分の方が困っているのだよということになると思うのです。それに対して、やはりごみ出しというのは大変、これは必要ではないかと自分では感じているところでもあります。これも、なかなかアンケート、難しいところもありますので、これは、ほかのところでも、ま

た話していきたいとは思いますが。

次の質問といたしましては、町が進めている、現在、二つの地域で生活支援体制の整備事業、この中にもごみ出し支援があり、大変、高齢者の手助けになっていると思われませんが、町は、これから、これをほかの地域に広めていくものと私は考えておりますが、これに対して、どのような計画で進めておられるのか、もう少し詳細をお教え願いたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（吉田敏郎）

保険健康課長。

○保険健康課長（高橋靖恵）

星野議員の御質問にお答えさせていただきます。

まず、生活体制整備というのは、平成27年4月の介護保険制度改正によって新たな地域支援事業が始まって、平成28年度に開成町社会福祉協議会へ生活支援体制整備を委託いたしました。生活体制整備事業は、高齢者の方が住み慣れた地域で暮らし続けられるように、地域住民による支え合い活動を広げるための体制整備をする事業を実施しているところであります。平成30年度には、「開成町おたがいさまネット中家村」が中家村地区に発足しました。「円中長生会、生活支援活動推進委員会」が円中で発足しました。こちらの主な支え合いの内容としましては、ごみ出し支援、あと買い物、あと通院送迎、電球の交換、草むしりなどとなっております。

今後、こちらの支え合い活動をほかの地域にも広げられるように、委託している開成町社会福祉協議会によって地域の課題を抽出、まずは抽出していただき、それに対する支援のニーズの把握など、整備に向けた取り組みを今現在も図っているところであります。

今年度につきましては、開成町社会福祉協議会への委託の内容を充実させて体制整備を強化することといたしました。一応、目標としましては、令和2年度までに7団体の発足を目標としております。30年度に2団体、中家村と円中さんにできました関係で、あと五つを目標としております。

以上となります。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

27年4月に社協の委託ということで、分かりました。これは、地域の住んでいる方のための支え合い活動だということですね。

令和2年までに7団体を目標としておるということですが、これは、ほかの団体自体が要望していないのか、それがなければ、まだまだ、ちょっと、あまりにも範囲が広過ぎて、全部のことが一遍に取り組めないのだよということなのではないでしょうか。その辺のところを確認しながらいきたいのですが、これはいかがでしょうか。

○議長（吉田敏郎）

よろしいですか。保険健康課長。

○保険健康課長（高橋靖恵）

現在は、30年度に二つできましたということでお話をさせていただいたのですが、今現在、いろいろ調査・研究、ニーズ調査とかをしているところが上島と河原町という地区があります。あと、金井島とパレットと、今、およそ6団体の中で動きが見えている状況です。こちらにつきましては、地区という組織でなくても、どんな範囲でも良いというところなのですが、ただ、自治会単位でニーズというものはやはり変わってきますので、自治会の単位が一番、住民にとっては、支え合いの場としては良いのではないかと考えております。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

説明、どうもありがとうございます。まだ、上島とか河原町、その他に広げていきたいということですので、これはいっぱいやっていただきたいなと思っています。社協の話なので、一概に全部、町ということでもないなので、お互いに、これは協力し合いながらどんどん進めていってもらえたら非常に助かるかなと思っています。

それでは、次の質問といたしまして、現在、ボランティア活動として「ちょこボラ」や老人クラブの友愛活動等、ごみ出し支援もあるということなのですが、やはり長く続けるには、過度な負担になるとなかなか続かないのではないかなと思いますが、今まで1年まだ少々ということなので、どのくらいまでいっているか分かりませんが、アンケート等をとって、負担の状態はどうですかというような確認というのはなされるのでしょうか、その辺をお教えください。

○議長（吉田敏郎）

福祉課長。

○福祉課長（渡邊雅彦）

「ちょこボラ」ということで、社協関係でございますので、福祉課長からお答えさせていただきます。

今、「ちょこボラ」に関しましてのアンケートということでございます。「ちょこボラ」だけのアンケートというのは、直接はとっておりませんが、ただ、先ほど、保険健康課長からお話しさせていただきましたような高齢者保健福祉計画、それから介護保険計画等の中でのアンケートもとっておりますので、そういった内容の状況、実態等を踏まえまして、その辺の状況把握については努めてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

分かりました。いろいろなところで情報をとって、無理のないような状況で皆様、

活動できるようになっていただければということで、できるだけ、そういうのを調べていただきたいなとは思っております。

声かけということについて次は聞きたいと思うのですが、ごみ出し支援、現状のごみ出し支援のとき、定期的に高齢者宅を訪問するために、ごみ出しというのは定期的に訪問するため、高齢者の異変やトラブルに気づくことができるのに大変適していると思っております。高齢者の見守りは、民生委員だけや、介護訪問ヘルパーの方もいらっしゃるかもしれませんが、なかなか、それだけでは足りないのではないかなと自分でも感じているところですが、ごみ出しにおける見守り活動のときに、どのような声かけをしているのか。毎回やっているのか、それとも、やってくださいねという人だけにこれをやっているのか、ちょっと、その辺の状態を少しお教え願えますか。

○議長（吉田敏郎）

福祉課長。

○福祉課長（渡邊雅彦）

ただいまの星野議員の御質問にお答えいたします。

こちらのごみ出しに関しての見守りという関係でございます。「ちょこボラ」の関係でお話しさせていただきますが、昨年度、4名の方が支援を行っていると、先ほど、町長の答弁でもお話しさせていただきました。このうち3名の方につきましては、ごみ出しの際に声かけを行いまして安否確認を行っております。1名の方は、ごみが既に庭先に出されており、それをごみに出すという形でございまして、出されない場合には特には見守り等は実施をしていないという、そのような状況でございます。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

「ちょこボラ」、4名のうち3名で声かけとかいろいろやっていただいているということで、これは非常に大切なことであると本当に思っています。これ、ごみ出し支援を実施している自治体のうち、データなのですが、約7割で声かけによる見守りや安否確認を行っているというデータが出ております。そのうちの約4割で高齢者の不調や異変などを発見したということがあり、また、約1割、孤独死の発見につながったという報告もあるということです。できるだけ頻繁に皆様のところでお声がけして見守りをいろいろな方面からやることによって、御高齢者の方が万が一のときに、できるだけ助かりやすいような体制をとっていくのはすごく重要だと思いますので、ぜひ、このことについても力を注いでいただきたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

また、今度は、次の質問といたしましては、現時点では「ちょこボラ」や生活支援の事業等の取り組みは、社協という側面から、とても良い取り組みということでやっていらっしゃるという感じなのでしょうけれども、現時点で、先ほど、「ちょこボラ」4名で中家村は2名でしたか、この人数を考えますと、なかなか人数的には。町は、

もっと、これから支援を広げていきたいよというお話が入っていますが、なかなか人数的には厳しいものがあるのではないかなと自分では感じております。

これから支援をするために、ほかの人たちとの連携をどのように考えていくのか。例えば、自分たちが考えられるとしたらシルバー人材センターとか、いろいろなところの自治体とかを見ますと、ごみを持っていってくださる方の事業所と一緒にやってくださるような、そういうところもいろいろな話を聞きます。町としては、これから足りない人数、もし広げていくのに対して足りない人数、どのように補っていくか、考えていらっしゃると思います。

○議長（吉田敏郎）

福祉課長。

○福祉課長（渡邊雅彦）

ただいまの星野議員の御質問にお答えいたします。

こちらのごみ出しの関係ですとか見守りの部分での、さらに重層的な考え方ということでございます。議員、今、お話がございましたとおり、シルバー人材センターでの今年度の重点取り組みといたしまして、高齢者などの家事支援サービスの実施を上げております。この中にも、ごみの分別等の清掃作業も含めたごみ出しを今後、見込んでおりますので、こちらでも今後の活動につながっていくかと思っております。

また、先ほど、ごみ出しと見守りという関係でお話しさせていただきましたが、シルバー人材センターさん以外にも老人クラブさんの友愛チーム、こちらで見守り活動というのを、友愛活動という中で見守りを実施しております。老人クラブさんの友愛活動の中でも、ごみ出し支援という部分もあわせて、そちらの高齢者の方の支援活動という部分でクラブの方がお互いに支え合うという、そういう体制を持っておりますので、こちらも含めて広げていければと思います。

以上です。

○議長（吉田敏郎）

星野議員。

○6番（星野洋一）

そうですね。少ない人数を補うためには、今のお話ですと、老人クラブの友愛クラブですか、一緒にやったださっているということで、もっともっと、そういうものをいっぱい広げていって地域の高齢者の方を助けていってもらいたいなと思っておりますので、その辺も一生懸命やっていただければ非常にうれしいと思っております。

最後に、自治会等と連絡を通じて高齢者のごみ出し困難な方の声を吸い上げたいよという、町の答弁でもございましたが、自治会以外の方や、家族や親戚が近くにいなかったり御近所の助けてくれる方がいないような高齢者の方、まだまだいっぱいいると思うのです。どこにすがって良いのか、不安になったりすると思っております。今後、さらに高齢化が進んでいく中で、ごみ出し支援の需要は、もう本当に多くなる一方だと考えております。今後は、生活支援体制の整備も踏まえて、福祉部門も協力して、より合理的な方法で高齢者の方を助けていっていただきたいなと本当に思っております。

す。

前にも述べましたように、2035年、15年後には3人に1人の方が高齢者となる社会が到来すると本当に推計されております。本町においても、これは例外ではございません。これから高齢者社会に備えて支援が本当に大切になっていきますので、しっかりとした地域の支援体制づくりをお願いして、今回、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（吉田敏郎）

これで星野議員の一般質問を終了いたします。